

授業科目名	ダンスワークショップ実習C	担当教員	手塚 夏子
必修の区分	選択		
単位数	2単位		
授業の方法	実習		
開講年次	2年 第2クォーター		
講義内容	この授業の目的は、ダンス活動における大切な基本として自身の体を観察し、普段意識したことのないさまざまな体の細部を意識する。また、普段の生活で何気なく行っている体の身振りを観察、言語化し、言葉による指示書でそれらの身振りを再現しようとする試行錯誤を行う。自分を取り巻く人と人の関わりを観察することで、今という時代や自分をより深く理解する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自身の観察を通し、他者、空間との関係の変化をダンスのクリエイションに繋げる。</li> <li>2. 言葉と体の関係を掘り下げ、ダンス創作・及び他者のダンスについて語る言葉を身につける。</li> <li>3. 自身の深層から生じる「問い」を見つける力をつける。</li> </ol>		
授業計画	<p>1日目～2日目</p> <p>呼吸を意識しながら動く。 体のさまざまなところに意識を向ける。 体の地図を描く 体の一部を意識し、空間の一部に向かって線を引く 体の一部を意識し、誰かの体の一部に線を引く</p> <p>3日目</p> <p>二人組になって、おしゃべりをしながら相手の動きを書き起こす。 書き起こしたものを読み上げた時、それを聞いて動く人を観察する。 インストラクションを使って小さなダンス作品を作る。</p> <p>4日目</p> <p>快と不快をリストアップする。 体の観察や関わりを観察をもとに自分の中で浮かび上がってくる問いを言語化する。その問いをもとに10分の実験を作る。</p> <p>5日目～6日目</p> <p>実験の発表を行う。</p> <p>フィードバックをシェアする。</p>		

事前・事後 学習	毎回実習後にフィードバックを提出していただきます。
テキスト	特に指定なし
参考文献	授業内に適宜紹介する
成績評価 の基準	平常点：60%（授業への出席・提案・協働、その過程での掘り下げを評価） 発表点：40%（提出物/報告書の提出・内容）
履修上の注意 履修要件	全日程の参加を原則とするので、日時をしっかりと確認すること。 他の参加者との身体的接触を伴う場合があります。強く抵抗がある場合は 教員とよく相談の上で履修してください。
実践的教育	芸術文化分野の実務経験を持つ教員が、その実務経験を生かして教授する ことから、実践的教育に該当する。
備考欄	実習の詳しい内容については、実習初日に説明します。 履修を考えている方は履修希望書の提出をお願いいたします。  教育の質保証ならびに授業の運営・安全確保の観点から受講者の上限を 20名とさせていただきます。定員を超える場合は、担当教員が履修希望書 を読んだうえで選考を行います。希望書の無記入、締切後の提出は選考に 影響しますので、気をつけてください。